

トマホーク配備反対！

「ピースアクション in 舞鶴」報告

山本みはぎ

5月31日、巡航ミサイルトマホークを海上自衛隊舞鶴基地のイージス艦への配備計画に反対する「ピースアクション in 舞鶴」が開かれたので、愛知から6名で参加しました。地元京都をはじめ全国各地から、2800名が集まり、自衛艦が係留する舞鶴基地北吸桟橋を先頭に、総延長1.5kmの人間の鎖を作り「トマホークいらない！・配備反対！」の声をあげました。



人間の鎖のあとは屋外と屋内の2カ所で集会がもたれ、トマホークが配備予定の横須賀・呉からのほか、

長射程ミサイルが配備された熊本や静岡、大型弾薬庫建設が進む京都祝園や大分、沖縄島・宮古島からの参加者の発言もありました。愛知からも、三菱重工小牧北工場でのミサイル製造反対を訴えました。

トマホークは、2022年の岸田政権の元での安保3文書の閣議決定を機に、アメリカから、2025年度から2027年度にかけて「Block IV」200発と「Block V」200発の計400発(2540億円)の購入が決まり、舞鶴のほか横須賀・呉・佐世保の各イージス艦8隻に搭載予定です。すでに佐世保基地所属のイージス艦「ちょうかい」は改修工事と乗組員の訓練も終え、実戦配備準備が進んでいます。舞鶴基地でも、地方総監部庁舎の地下化が進められ、係留所は大型艦が接岸できるように浚渫工事も進んでいるという。

巡航ミサイルトマホークは、1991年の湾岸戦争で始めて使用され、今年2月のイスラエル・アメリカによるイラン攻撃にも使用され、イランの小学校で女子児童を含む175人が犠牲になった攻撃にも使われています。



イラン攻撃には1000発以上が使われ、アメリカの備蓄が少なくなったことから納入の

遅れも報道されている。当日の主催者のあいさつ文の中には「トマホークミサイルが向かう先にも、私たちと同じように暮らす市民とその日常があります。トマホークを配備するということは、他の国の市民との関係では加害国になりうるということでもあるのです。これは舞鶴だけでなく、日本と世界の問題です。」とある。トマホークも長射程ミサイルもいらない！」とあります。

舞鶴を新たな出撃拠点にしてはならないと強く思いました。

米軍経ヶ岬通信所 X バンドレーダー

私たちは、30日から現地入り京丹後にある米軍のXバンドレーダーに行った。2013年の日米首脳会談で設置が決まり、住民の反対を押し切って2014年12月から運用が開始されている。Xバンドレーダーは、弾道ミサイルの探知・追尾をするというアメリカのミサイル防衛システムの重要な施設だ。有事になれば、優先的に攻撃される可能性もある。そのための、日米共同の訓練も頻繁に行われています。また、強い電磁



波を出すことで周辺への環境の影響も指摘されている。青森県の車力駐屯地とともに、米軍のミサイル防衛の「目」とし、ミサイル防衛システムの要であるXバンドレーダーは撤去されなければならない。

レーダーは建物の奥の海沿いにあり見えない。

浮島丸殉難者追悼の碑建

帰途、立ち寄ったのは「浮島丸殉難者追悼の碑」。1945年8月22日、青森県の大湊港から旧日本海軍輸送船「浮島丸」は多くの朝鮮人労働者と家族を乗せ、帰国の途についた。連合軍の要求に基づいて進路変更をし、舞鶴港に寄港した8月24日、午後5時20分頃大爆発が起こり、乗員3735名のうち、確認できただけでも524人と日本人乗組員25人が亡くなるという事故が起こった。1978年、事故を風化させない

ということで地元の市民らで浮島丸殉難者追悼の碑建立実行委員会を結成し、追悼碑が建立されたもの。「浮島丸殉難者を追悼する会」が今も活動をしている。



